

「安心都市・京都」の実現と 「安心へのおもてなし」



京都市消防局長 長谷川 純

京都市は、11行政区、面積約830km²、人口約147万人。西陣織や京友禅、京焼・清水焼などに代表される数多くの伝統産業のほか、多くの分野において独創的な産業が発達しています。また、1,200年を超える悠久の歴史に育まれた世界に誇る歴史と文化を有する都市として、世界遺産をはじめとする数多くの文化財が、山紫水明と称えられる美しい自然と調和しながら受け継がれており、葵祭、祇園祭、大文字五山送り火、時代祭など一年を通じて様々な伝統行事も催され、国内外から年間約5,000万人の観光客が訪れています。

当局では、文化財防火防災対策として、社寺等の実態に応じた、総合的な防災施設の整備をはじめ、地域住民と文化財関係者が連携し、平常時の火災予防や災害発生時の初期消火、文化財の搬出等の初動活動を行う「文化財市民レスキュー体制」の育成指導や防火・防災知識を身に着けた観光ガイドの方々を「文化財防災マイスター」として養成する事業を行っています。

また、市域には、古くから残る木造密集市街地や細街路（幅員4m未満の道）に建ち並ぶ町屋などが広く分布し、京都らしい風情が魅力を引き立てている一方、地震等の大規模災害時には、避難や救助に支障が生じることや火災時には延焼拡大に発展しやすいなど、都市防災上の問題も内在しています。これらの特性への対応として、昨年11月にワンボックスタイプの市販車をベースとして、容量500リットルの水槽と小型動力ポンプを積載し、容易にホース延長が可能なりール収納式25mm保形ホースに、少ない水量でも高い圧力で放水が可能なガンタイプノズルを組み合わせた「速消小型水槽車」を開発・導入しました。細街路へも容易に進入でき、火災の初期段階での迅速な消火・救助活動が行えるという高い有効性から本年10月には、3台を追加導入し、現在5台を運用しています。

さらには、国際観光都市として、多くの外国人の方々が京都へ訪れることから、119番通報時や災害現場において日本語によるコミュニケーションが円滑に行えるよう、5カ国語（英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語）による24時間・365日対応可能な通訳サービスを開始しました。現在、旅行業界等を通じて当該事業の周知を図っているところです。

9月の台風18号の接近に伴い、京都市域では大雨に関する特別警報が発表されるほどの状況となり、激しく降り続いた雨により、市内各所で、河川越水による床上・床下浸水や土砂崩れなどの災害に見舞われました。浸水により避難が困難となった方々を救出する事案などがありましたが、幸いにして、人命が失われる甚大な被害は生じませんでした。この災害により、災害への対応に加えて、時々刻々変化する気象状況や災害発生危険に関する情報、避難の伝達などの災害情報を迅速に住民と共有することが減災につながるとの認識をあらためて痛感いたしました。

今後も、市民や地域と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」と、あらゆる災害現場に的確、果敢に立ち向かう「力強い消防」により、「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」の実現と2020年の東京オリンピック開催により、京都へも多くの方々がお越しになられることから、きめ細やかな発想により、安心して京都でお過ごしいただくための「安心へのおもてなし」を探求していきたいと思えます。